

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

平成29年度 東京都福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

2018年4月11日

社会福祉法人森友会
あかねの森保育園

御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 清水 康之

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1002063	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H1101008	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	④	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑤	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	あかねの森保育園			
事業所連絡先	〒	179-0072		
	所在地	東京都練馬区光が丘6-1-1-101		
	TEL	03-6904-2171		
事業所代表者氏名	香野 茂一			
契約日	2017年	12月	1日	
利用者調査票配布日(実施日)	2017年	12月	22日	
利用者調査結果報告日	2018年	2月	1日	
自己評価の調査票配布日	2017年	12月	20日	
自己評価結果報告日	2018年	2月	1日	
訪問調査日	2018年	2月	8日	
評価合議日	2018年	2月	8日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査実施にあたっては、開始時に調査の趣旨などを記した依頼状の配付やポスター掲示などで理解促進を図るとともに、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付するほか、必要に応じ提出期限を延長するなどして回収率向上に努めた。 事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもが今を幸せに生き、すべての子どもに明日を生きる力を育てる。 ・すべての子どもが自分の流れで園生活を楽しむ。 ・すべての子どもが無理なく自立への道を進む。 ・すべての子どもが協力・協働の喜びを知る。 ・すべての子どもが自分なりに表現を楽しんで発表する。
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>すべての子どもの最善の利益をめざすためには、何よりも子ども一人ひとりの存在そのものを愛し、子供の人格を尊重できる人材でなければならない。保育の仕事は一人で行えるものではなく、利用者のみならず、職員間の思いを理解することが大切である。相手と協力して仕事をすることに喜びをもち、相手から学ぶことのできる人、相手に思いやりを持てる人を求めている。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保育所の職員は、言動、ふるまいのすべてにおいて子どもの手本であることを意識し、日々の保育に当たること。また「子どもの命を預かっている」ことを常に念頭におきつつ、専門知識を学び、現状に満足することなく、保育の質の向上を追求していくこと。明日の社会を担う人間を育てる大事な仕事に自覚と誇りを落ち、利用者とともに成長していくこと。</p>

[ver.2]

調査対象

調査開始時点での本園の利用世帯91(在籍児童数108)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。回収は事業所と協議のうえ郵送または郵送と事業所内での回収との併用にて行い、結果は選択式・自由記述とも園に報告した。自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数	108
利用者家族総数(世帯)	91
共通評価項目による調査対象者数	91
共通評価項目による調査の有効回答者数	56
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	61.5

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」42.9%・「満足」39.3%の計82.2%で、設問別では「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「配慮された行事日程」など全17問中10問で80~90%台の高い支持を得ている。自由意見では「異年齢保育で、上のクラスのお兄さんお姉さんの行動や遊びを学んだり、下の子をかわいがる思いやりの精神が芽生えており、また子どもの気持ちや行動に目を配り、トイレトレーニング等子どもの主張を尊重してくれ、先生方は皆さん親しみやすく、連携も迅速で大変よい」「準備する荷物が少なく、アプリでの出欠確認や連絡事項確認も自由に行うことができ助かっており、また園庭が広く、異なる年齢の子どもたちと関わることができることも成長につながっている」「子どもの自主性を重んじており、施設がきれいで、園庭や教室が広い」「自由な教育方針が、成果が表れてくる小学生時代などにどう表れてくるかが楽しみである」などの声が寄せられている。さらなる向上を望む意見としては職員の体制や退職・異動、保育や行事、保護者への情報発信や子どもの様子の報告・説明、職員の保護者や子どもへの接遇に関する事などが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	54	1	0	1
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が98.2%、「どちらともいえない」が1.8%となっている。自由意見は「園庭が広く、設備も新しく、のびのび通っている」型にはめようとする事なく、温かく気長に見守ってくれる」の2件が寄せられている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	51	3	0	2
「はい」が94.4%、「どちらともいえない」が5.6%となっている。自由意見は3件で、「子どもの興味に合わせてくれ、関心のあることも教えてくれる」「知育のおもちゃが多いと思う」のほか、活動内容の保護者への周知について、さらなる検討を望む声が見られる。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	46	7	0	3
「はい」が86.8%、「どちらともいえない」が13.2%となっている。自由意見は4件で、「おいしい手作りおやつは安心で、量を自分で決めるのもよいと思う」「手作り温かいものを食べてもらえてありがたい」などのほか、メニューや食事の提供量について、さらなる配慮を望む声も見られる。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	41	10	2	3
「はい」が77.4%、「どちらともいえない」が18.9%、「いいえ」が3.8%となっている。 自由意見は5件で、「季節ごとの行事や風習を取り入れた保育をしていると感じる」「園庭が広く、、その中でも十分に自然と触れ合える」のほか、戸外活動や行事等のさらなる充実を望む声も寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	38	4	0	14
「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が9.5%となっている。 自由意見は、「いつでも延長が可能で、とても便利で助かる」の1件があった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	33	14	8	1
「はい」が60.0%、「どちらともいえない」が25.5%、「いいえ」が14.5%となっている。 自由意見は11件で、「熱や体調が悪いのを知らせてくれ、そのような子を別部屋にしてくれている」「ウイルスなどの消毒はよくしてくれている」のほか、外部侵入対策や保育中の安全管理、設備面について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	51	2	2	1
「はい」が92.7%、「どちらともいえない」が3.6%、「いいえ」が3.6%となっている。 自由意見は3件で、「土曜午前中なので、長引かず助かっている」のほか、行事の日程等における各家庭の負担や就労等への配慮について、さらなる検討を望む内容も見られる。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	42	11	2	1
「はい」が76.4%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が3.6%となっている。 自由意見は10件で、「子どもがけんかをしたこと等、子どもの様子に変化があると詳細に連絡をくれ、その上で相談に乗ってもらったり、こちらの思いを聞いてくれたりする」「時間を割いて丁寧に子どもの様子を聞いてくれたり、教えてくれたり大変よかった」などのほか、日頃の子どもの様子などの伝達・報告、コミュニケーション機会の確保や相談のしやすさについて、さらなる配慮を望む声も寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	50	4	1	1
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が7.3%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は4件で、「いつも掃除をしている姿を見ると頭が下がる」「物を片付ける場所がわかりやすい」などのほか、各室内の整理整頓や衛生管理などについて、さらなる向上を望む声も見られる。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	48	2	5	1
「はい」が87.3%、「どちらともいえない」が3.6%、「いいえ」が9.1%となっている。 自由意見は6件で、「非常にさわやかで明るく頼もしく、子どものよいところを伸ばしてくれ、子どもたちものびのびしており、先生もいつもニコニコしている」のほか、職員の接遇マナーや服装・身だしなみ等について、さらなる配慮を望む内容も寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	48	6	1	1
「はい」が87.3%、「どちらともいえない」が10.9%、「いいえ」が1.8%となっている。 自由意見は4件で、「優しく丁寧で信頼できる先生がいて、知識もあり気にかけてくれ、何かあれば助けてくれる安心感がある」のほか、ケガや体調急変等の把握・対応、保護者への報告などについて、さらなる向上を望む声も見られる。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	33	14	3	6
「はい」が66.0%、「どちらともいえない」が28.0%、「いいえ」が6.0%となっている。 自由意見は10件で、「うやむやにせず次の日になってもきちんと子どもたちに説明したり、話を聞いたりしており、子どもたちも先生の言うことに素直に従っているように思う」のほか、子ども間のいさかい等の際の保護者への情報提供、子ども一人ひとりへの配慮や目配りなどについて、さらなる向上を望む声も寄せられている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	48	6	0	2
「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっている。 自由意見は5件で、「子どもの様子に合わせた対応をしていると思う」「子どもの長所短所をよく見てくれており、私より詳しいかもしれない」のほか、子どもの気持ちを大切にされた対応について、さらなる配慮を望む声もあった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	41	4	0	11
「はい」が91.1%、「どちらともいえない」が8.9%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	40	11	4	1
「はい」が72.7%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が7.3%となっている。 自由意見は5件で、子どもの様子や保育内容等に関する保護者への報告・伝達などについて、さらなる向上を望む声が見られる。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	39	10	2	5
「はい」が76.5%、「どちらともいえない」が19.6%、「いいえ」が3.9%となっている。 自由意見は6件で、「いつも要望について丁寧に対応してくれる先生方に感謝している」のほか、不満・要望等への対応や傾聴姿勢などについて、さらなる配慮を望む声も寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	19	7	6	24
「はい」が59.4%、「どちらともいえない」が21.9%、「いいえ」が18.8%となっている。 自由意見は「そこまで困ったことがない」「相談したことがない」の2件が寄せられている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 9/9
	評価項目1 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している 評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えていく <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	保育理念や目標をさまざまな媒体に明示し、職員・保護者への周知に取り組んでいる 法人が系列園共通の保育理念と保育目標を定めており、目指す保育事業推進の基本原則としている。パンフレット・ホームページや「入園のしおり」などに明記するとともに、職員には毎月の職員会議と園内研修で理解と掘り下げを図り、新入職員には入職前に職場実地研修や新入職員研修の機会を設けて周知の徹底を図っている。また会議等の際、明確な指針がない時は理念に立ち返って協議・判断し、結論を導き出している。保護者には入園説明会や保護者会・個別面談等で説明を行うとともに、園便りやホームページ等に掲載して理解を求めている。	
	園長は経営層の役割・責任を職員に明示・表明して園運営をリードしている 経営層の役割・責任・権限については法人と園の管理規程で明確にされており、また園マニュアルの中に層別・職種別の職務を定め職務分担表として明示している。職員には職員会議の中で、新入職員には新入職員研修において周知の徹底を図っている。園長はこの職務分担に基づき、法人理事会での決定事項の執行・園事業計画の推進・園経営や運営に係る事項の統括管理を行っている。また職員会議を主催して園事業推進の円滑化を図るとともに、日常業務を通して指導力を発揮している。さらに行政・地域等への園を代表する対外窓口として機能している。	
	重要案件は内容に応じて法人・系列園長会・園内で決定され、関係者に伝えられている 法人内の重要案件は、毎月の関東地区内の合同園長会や九州各園を含めた園長会において検討・決定がなされており、案件に応じて理事会にて最終決定が行われ、決定事項は職員会議や朝礼で職員に周知を図っている。園内の案件事項は職員会議や朝礼等で検討・決定がなされている。また全職員に出勤時に確認を課した「コミュニケーションノート」を設けて周知漏れを防いでいる。保護者には入園説明会や保護者会、園便りやクラス便り、文書掲示や随時のプリント配付で伝えるほか、登降園連絡ツールによる情報伝達も行い、周知の徹底を期している。	

カテゴリ-2		
2 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(2-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
守るべき法・規範・倫理を明示し、職員会議や研修を通じて周知・喚起している 保育者として守るべき法・規範・倫理等については、就業規則及び「よき保育者になるために」に明示しており、職員には入職時研修や毎月実施する法人内研修の中で関連づけて周知を図り、理解を深める取組を行うなど意識の持続と喚起を図っている。法人・園のホームページを通じて、保育理念や保育目標、取組姿勢や保育内容・保護者へのお知らせ・財務諸表などを詳細に公開するほか、行政による定期的な巡回指導や利用者調査の実施・今年度の第三者評価受審・公表するなど、園の透明性の確保に継続して取り組んでいる。		
園が入居する高層住宅の住宅管理組合の総会等に、事業所機能を還元している 当園には、区が高層住宅の管理組合の要請に基づき策定した計画に応募・審査適合・開設した経緯があり、管理組合とは関係が深く、総会や駐車場抽選会には施設や備品を開放している。また地域住民には夏祭り・運動会・発表会などの園行事の時に、管理組合の掲示板にポスターを掲示して参加を呼びかけている。園からは、管理組合の春秋の防災・防火訓練に園長が参加して協働体制を保持している。事業所の専門性を活かした取組については、子育て家庭に向けた育児講座や、就学後の子育てをエリア内で協働する取組などを今後の課題としている。		
ボランティアの受け入れや複数の地域ネットワークへの参画もなされている 将来の保育を担う人材育成の一環として学生のボランティアを積極的に受け入れ、保育の専門性を学ぶ機会を提供している。これを含むボランティアの受け入れについて、マニュアルが整備され、受け入れの際には主任が担当して事前に保育の流れや個人情報の守秘義務等の説明を行い、誓約書を求めている。園長が区の私立保育所園長会や幼保小連絡推進協議会に参加し、地域の課題検討や各所との連携等に関する話し合いに加わっている。地域内の系列園との交流・相互研鑽もなされるほか、近隣の小学校に年長児が招かれて学校体験をする機会を設けている。		

カテゴリ-3		
3 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用		
サブカテゴリ-1(3-1)		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○非該当
●あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○非該当
評価項目3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○非該当
カテゴリ-3の講評		
苦情解決制度の整備と保護者への周知を図り、気軽に相談できる姿勢づくりに努めている 苦情解決体制として解決責任者(園長)・受付担当者(主任)、第三者委員を設けた解決への仕組みがあり、「入園のしおり」やホームページにフローチャートで明示し、保護者には入園時に同しおりに基づいて説明を行っている。この制度を利用した保護者からの申し出は平成27・28年度には生じていない。またオープンな姿勢と気軽に相談できる雰囲気づくりに努め、日常のコミュニケーションや連絡帳、保護者会などからも意見・要望を聞き取れるようにしている。フィードバックは、個別案件は個別に、全体に関わる内容は園内の掲示等にて行っている。		
保護者の意向をさまざまな機会を利用して把握し、サービスの改善を図っている 保護者の意向については、日々の送迎時の申し出・保護者会・個別面談・親子行事終了後のアンケート・利用者調査等で寄せられた要望等で把握し、整理・集約している。集約した要望等は、職員会議や該当する会議等において全職員が共有・検討し、その結果をもとに園の運営や次年度における同様の行事企画に活かすなどしている。保護者には、文書配付や園内掲示等で回答して理解を求めている。また個々の保護者の要望等には随時対応している。具体的な改善事例として、職員間の迅速な業務連絡の要望に応じたトランシーバーの導入がある。		
地域の園として機能を果たすよう、外部の関連機関と協働し状況を把握して活動している 地域・事業環境に関する情報は、園長が参加する法人内の合同園長会・区の私立保育園長会・幼保小連絡推進協議会等から得ている。制度・業界の動向も園長会等での行政説明で随時把握するほか、法人事務局の発信や各種報道・保育専門誌などを通じて情報収集を行っている。身近な園周辺の地域の声は、園見学の参加者からの聞き取りや行事に招待した地域の方からの提案、住宅管理組合との交流等を通じて得ている。国の政策に基づく保育制度の動きや職員の処遇改善など、必要な情報は職員会議や「コミュニケーションノート」等で職員に周知を図っている。		

カテゴリー4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリー1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
		11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年度単位の計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなど の取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(4-2)		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		4/4
評価項目1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		評点(0000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>法人の中・長期計画をもとに園の事業計画を策定し、年間を通じて取り組んでいる</p> <p>法人として社会福祉法人の制度改革への対応、業務全般の質の向上や職員処遇の改善、施設の開設・修繕のための資金確保、園の保育の理念・方針などへの保護者・地域・社会からの理解獲得などの現状の課題を踏まえ、主な取組と目標水準、達成時期を定めた31年度までの事業計画を毎年見直し策定している。園ではこの法人の事業計画に基づき、自園の取組の現状やマンパワー・コスト面を考慮して単年度計画に落とし込み、重点事業計画5項目(保育の充実、人材育成、安全・危機管理、環境整備、地域との連携)を挙げ、期限を定めて取り組んでいる。</p> <p>計画から振り返りまでの仕組みを整え、担当を中心として進捗管理にあたっている</p> <p>法人の中長期事業計画の実行計画化に際しては、系列の関東地区園長会や主任会で検討・共有し、各園の単年度事業計画に反映する仕組みがある。園においては重点事業計画5項目を、その内容に応じて園長・主任・担当が作成し、会議等を利用して職員から意見を収集して調整を行っている。業務の分担は別途定める業務分担や職務分掌に基づいており、各項目の進捗状況の確認は職員会議や該当する会議等で行っている。法人が推進する「誉める保育」に係る研修会を毎月、系列園持ち回りで開催しており、先進事例・失敗事例を学ぶ場にもなっている。</p> <p>利用者の安全確保に向け、マニュアルの整備と各種の訓練・研鑽などを行っている</p> <p>利用者の安全の確保に向け、安全管理マニュアルを整備するほか、定期的な防災・防犯の訓練の実施とともに、感染症・SIDS対策やプール時の安全配慮等の指導も行っている。また受診治療を要したケガ等は所定の報告書様式に記し、要因分析や再発防止策の検討を行うほか、職員会議や「コミュニケーションノート」にて職員間で共有化を図っている。さらに系列園内のケガ等の事例も共有し、自園の安全配慮や予防意識の向上につなげている。区内の感染症週報や不審者情報等を把握した際には園内で書面を掲示し、保護者への注意喚起を行っている。</p>		

5			カテゴリ-5
5			職員と組織の能力向上
			サブカテゴリ-1(5-1)
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(〇〇●●●)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している		<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している		<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(5-2)	
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる	評点(〇〇〇)
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる
評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる	評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる
カテゴリ5の講評	
<p>事業計画に沿った人材確保を目指し、東京エリアの系列園が合同で人材募集を行っている</p> <p>職員の採用においては、幅広く人材を求め、法人の理念や系列全園で実践する「誉める保育」への共感、各園で展開するチーム制の保育実践に順応できる協調性やコミュニケーション力などを重視し、これを踏まえて法人が人材採用を行っている。採用予定者には職場実地研修(1~3月)、新規採用職員研修(2月)を行い、保育や経営方針への同意を確認したうえで決定し、各園に配属されることになっている。園内の担任等の配置に関しては職員面談で希望を把握し、経験・意欲などを踏まえ、主任と協議したうえで最終的に園長が決定している。</p> <p>法人内での分野別の研修や外部研修などで、職員の資質向上を図っている</p> <p>系列園園長による「保育の質を向上する委員会」を中心に研修内容を検討のうえ、階層及び保育等の専門分野別での研修を設定しており、保育・発達支援などの研鑽を図っている。職員の参加促進対策として、系列園すべての職員が参加できるように園ではシフトを柔軟に調整するほか、土曜の午前と午後同一内容の研修を開く工夫をしている。また面談で把握した各職員の現状の課題や望まれる成長・本人の希望も踏まえつつ、内外での研鑽を図り、会議での発表や、報告書の提出と他園見学時の写真の回覧などによって成果の共有を図っている。</p> <p>福利厚生の充実に継続して取り組み、職員の生活と将来を見すえた内容になっている</p> <p>職員個人の裁量範囲を超えた現場の事案は、上位職者に報告・連絡・相談することとしている。職員の気づきや工夫は、職員会議や各フロアごとの協議等を提案の場とし、人材マネジメントは個々の職員の日々の仕事の成果・保育観察などで把握し、職員の自己評価や個別面談の結果を勘案して行い、意欲や帰属意識の向上を図っている。福利厚生面でも乳がん・子宮がん検診費用の全額負担、借上社宅制度、企業型確定給付年金制度、育児短時間勤務・子ども手当、リフレッシュ休暇、懇親イベントの開催など、職員の将来を見すえた取組となっている。</p>	

カテゴリ-8	
8 カテゴリ1～7に関する活動成果	
サブカテゴリ-1(8-1)	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ4:「計画の策定と着実な実行」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
「誉める保育」のさらなる浸透や、近隣の小学校との連携強化に取り組んでいる 当園が取り組んでいる「誉める保育」の掘削を深め、さらなる推進を図ることを目的に、職員を系列園や他園で行う誉める保育研修に計画的に参加させるとともに、保護者の理解を深めるために、園便り・クラス便り、保護者会などを通じて周知に努めた。その結果が「誉める保育」の実践に対する職員間の意識統一や、保護者の理解度の高まりに結びついている。 近隣小学校との連携を深め、交流ができる関係の構築に努めた。その結果、小学校と直接コンタクトを取る機会が増え、卒園児に関する情報交換や就学期を迎える在園児の小学校体験などが円滑に行えるようになってきている。 当園では行事は普段の保育の成果を披露する場として取り組んでおり、行事内容の構成は子どもたちの自主性を尊重している。この取組への保護者の受け取り方を前年の行事後アンケートから読み取り、今年度の行事では子どもの成長の伝え方、見せ方などのアイデアとして活用することができた。	
サブカテゴリ-2(8-2)	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
自園で「誉める保育」研修を定期的に行うことで、保育の質の向上に結びつけている 保育の見直しを図るために、職員を誉める保育研修に派遣するとともに、自園開催の研修を定期的に行った。派遣研修に加え、自園で定期的に研修を開催することでより多くの職員が参加することができ、問題・課題への認識度や対応策に継続して取組む意欲が高まり、保育の質の向上に結びついている。 情報交換と効率化の向上を目的に系列園内の園長、主任、看護師の交流に努めた。その結果、職務に共通する情報や各園の取組状況・事例などの共有が図られ自園内での職務遂行の効率化につながっている。	
サブカテゴリ-3(8-3)	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
プライバシー保護や保育の環境・援助両面で、改善や充実・新規活動がなされている 情報管理面では、他園で発生した、職員が携帯で園児を撮影してブログに掲載した事例を受け、自園での発生防止を徹底するために注意を喚起したり、当園が入職時の研修で園児の肖像権の扱いに関する事項を周知徹底していること、園のホームページでの扱いは保護者に説明して承諾を得ていることなどに触れ、防止策を講じている。 保育においては、「安全管理マニュアル」「衛生環境マニュアル」「感染症対応マニュアル」「虐待対応マニュアル」をそれぞれ改訂し、施設の実態や関連の行政通達等を踏まえた内容に一部改変している。また子どもの発達の推移を踏まえ、子どもたちが使用する室内の棚からカゴを撤去し、それぞれの意図や活動内容等に応じ、より自由に活用できるようにしたり、現場の要請を踏まえて室内の教具や家具・備品等を増設するなど、日常の保育の状況に即し、環境の最適化を図る取組を随時行っている。さらに「フェスティバル」は3クラス合同で開催し、昨年度の感想も踏まえ、保護者の観覧の利便を考慮し、今年度は最前列からマット敷き・パイプ椅子・立ち見の3種類に分け、自主的な入れ替わりも依頼して、保護者がわが子の姿をより見やすくなるようにしている。	

サブカテゴリー4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

園・法人との連携のもとで収支バランスの最適化に努めている

年間及び月次の予算策定・執行は法人本部との連携のもとで行っており、子どもの安全を第一に考え、予算書の作成時には計画性をもった経費計上を意識するとともに、定員の基準の範囲内での弾力的な運用、延長・一時保育の積極的な受け入れで収入の増加も図り、年度末の積立も計画的に実行している。また複数園運営の法人のスケールメリットを活かした各種調達の際の価格交渉など、経済性と質の維持の両立に配慮がなされている。

サブカテゴリー5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している

・カテゴリー3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

保護者の意見を把握・分析して対応することで、相互の信頼関係の構築につながっている

保護者の意向についてはさまざまな機会を通じて把握し、サービスの改善を図っており、上記サブカテゴリー3に既述の「フェスティバル」での観覧席に関する見直しのほか、入園説明会に関する検討と、保護者の保育体験を契機とする家庭と園との子育てに関する協働関係を優先課題にあげて取り組んでいる。入園説明会については前年のアンケート結果に基づき、内容・構成の見直しを図って今年度の説明会を実施し、今年度のアンケート結果にその効果が表れている。保護者の保育体験を契機とした子育てについては、保護者の感想文に基づいて保護者の意向を把握し、園から積極的にコミュニケーションを図ったことで、保護者と園の理解度が高まり、協働して子育てに取り組む関係に結びつけることができた。ともに保護者と園の信頼関係の構築につながる取組であったとらえている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>入園希望者に、ホームページやパンフレットを通じて園の概要・特色を発信している</p> <p>ホームページには園の概要や一時預かり・延長保育の利用要領・料金などのほか、子どもたちの日々の生活の様子を伝える写真を随所に織り込みながら、保育の理念・目標、一日の流れ、子どもの主体性の尊重や担任を固定しない複数名の職員によるチーム制の保育、異年齢活動・表現活動や「誉める保育」を通じた自己肯定感の育み、食事や環境設定の工夫など、保育のさまざまな特色・方針を発信している。また園のパンフレットも作成され、これらのうちの主な情報のほか、持ち物や行事など入園希望者の関心の高い各事柄に関するFAQが掲載されている。</p> <p>練馬区を通じた情報提供により、区民に当園の紹介がなされている</p> <p>当園を含む区内の私立認可全園の情報を伝える練馬区作成の資料があり、共通の様式に定員・保育時間・アクセス・食物アレルギー対応の各情報や、子どもの帽子着用の有無や値段、保護者組織の有無、与薬や障害児保育の対応、園の紹介文と上記園サイトへのアクセス用のQRコードが記載されている。また「ねりま区内のほいく情報」には各園の所在地・電話番号などの基本的な情報の一覧が掲載され、これらは冊子や区サイト上でのデータ掲載によって区民に配布されている。園の門扉の横には掲示板を設置し、保護者や来園者への情報発信に活用している。</p> <p>見学は当園の方針について相互理解を図る機会として、丁寧な説明に努めている</p> <p>見学は当園の保育の各方針を伝え、相互理解のもとでの施設選択につなげる機会ととらえ、丁寧な説明に努めている。平日10時ごろから1時間程度を目安に、電話による事前の日程調整を行って受け入れるほか、体制上可能な場合はその他の個別の要望にも柔軟な対応を図っている。随時質問にも答えながら園内を案内し、各室各所の環境を紹介しながら、法人の理念や個の尊重・異年齢の活動など、保育の基調とする取組や考え方を説明するほか、発熱時のお迎え要請の基準や延長保育利用など、特に共通理解が必要な入園後の各種対応についても伝えている。</p>		

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
2	サービスの開始・終了時の対応	5/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(00●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入園にあたって必要な各種事項を保護者に説明し、書面によって同意を確認している</p> <p>入園決定世帯向けの重要事項説明を実施している。期日を設け、複数組のグループに対して行う形で、全員一斉ではなく互いに顔の見える環境で行うことで、懇切丁寧な説明と確かな相互理解につなげている。「入園のしおり」をもとに、施設の概要や保育の理念・目標、年間行事や一日の生活のほか、登降園時の流れと諸注意、各種日用品、延長保育利用や食事・保健、災害時の対応など、利用開始にあたって伝えるべき各種情報を説明し、日用品は各室内の収納環境と併せて実物も提示している。説明後、書面によって同意を確認している。</p> <p>各種様式と保護者との個別の面談によって、保育開始に必要な各種情報を把握している</p> <p>家庭環境や保護者の勤務先等を記載する「緊急連絡表」、体質・既往歴や食事・睡眠・排せつ・着脱・言語等の発達状況、家庭の育児方針・伝達事項等を把握する「個人調査表」などの各様式を事前に郵送したうえで、各家庭と面談を行い、保育開始に必要な各種情報を確認している。保護者が記入・提出する左記の各様式をもとに、現年度の幼児・乳児担当が聴き取りを行うほか、保健・食事に関しては必要に応じ看護師・栄養士も同席し、詳細を確認する。各情報は在園児の申し送りとともに会議で報告・共有され、一覧資料も作成して確実に伝達に配慮している。</p> <p>入園直後の子どもの負担軽減を図り、利用終了後の支援の仕組みの確立を課題としている</p> <p>登園開始直後には子どもの心身の負担を和らげるため、保育時間を短時間から徐々に延ばす「慣らし保育」を行い、実施の有無や期間は子どもの状態や保護者の勤務状況などに応じ、個別に調整している。保護者にはなるべく詳しく子どもの様子を伝えるほか、希望者には保育の様子を実際に見てもらう時間を設けている。利用終了後の関係や支援の継続のための仕組みの確立は今後の課題としており、現状では「もりんぴっく(運動会)」に地域の子どもの参加可能な競技を設け、園玄関や近接の高層住宅の掲示板、ホームページでの広報を行うなどしている。</p>		

サブカテゴリ3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
3	個別状況に応じた計画策定・記録		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 保育課程や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
<p>子どもの健康・生活に関する情報を把握する仕組みが整えられている</p> <p>入園時に提出する「個人調査票」には、子どもの健康・生活に関する項目や保護者の要望を記入する欄も設けている。また「食事状況確認書」には入園までに食した食材に印をつけ、乳児は乳汁・離乳食についての状況を記入することとなっている。食物アレルギーのおそれのある子どもは、医師の指示書をもとに除去食材を確認して安全に提供できるような仕組みが整えられている。「保健調査票」には予防接種や既往歴等の身体に関する内容が記載され、看護師が集約をするとともに、変更点があれば随時加筆を行っている。</p> <p>チーム内で計画・振り返りを行い、日々の保育実践へとつなげられている</p> <p>保育課程は法人統一の内容とし、これらをもとに年・月・週の計画が策定されている。0～2歳児は毎月個別計画が策定され、個々の課題や発達が把握されている。0・1歳児は個別日誌として個々の活動が記録されているが、2歳以上児の個々や集団での活動日誌は、日々の子どもの姿を記録として残すあり方としては若干の課題が見られているので、検討されることを期待したい。各フロア内はチーム保育制が図られ、計画類はチーム内での策定となり、計画の振り返りは会議等で共有が図られている。</p> <p>子どもや保護者のさまざまな情報を伝達する仕組みが設けられている</p> <p>今年度から各保育室には色別に名称がつけられ、子どもの身支度等は固定された部屋を設けるとともに、必ずしもそれのみにとらわれず、一日の生活を通してクラスの枠を超え、子どもが自由に部屋を行き来できるような保育を行っている。保育者間の連携はトランシーバーや口頭で随時報告をし合い、子どもの情報伝達に努めている。登園時には保護者や保育者間の伝達内容を記載する「受け入れファイル」「乳児・幼児コミュニケーションノート」を活用し、職員間の伝達の仕組みを整え、子どもの情報共有と保護者への周知伝達に努めている。</p>		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	6/7
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	標準項目 1. 子どもに関する情報(事項)を外部和りとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇〇●)
評価 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	標準項目 1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>プライバシー保護についての承諾と子どもの羞恥心への配慮が行われている</p> <p>子どものプライバシー保護に関する取組については、入園説明会時に説明を行い、「個人情報の取り扱いについて」として子どもの情報開示の内容を書面で記し、同意できる内容の番号とともに署名を求めている。園内の幼児トイレには扉がつけられ、排せつの失敗時には他児に気づかれないように着替えを促している。おもらしをした場合は「おはな」という合言葉を職員間で共有し、子どもが気づくことなく片付け等ができるような配慮が行われている。</p> <p>子ども一人ひとりが愛され、尊重される実感を持てる保育の実践に取り組んでいる</p> <p>乳児・幼児の各会議や、その記録を含む「コミュニケーションノート」への職員の記入により、保護者からの個別の要望や子どもの発達課題などについて話し合い、対応や配慮などを共有している。また職員会議でも個別配慮が必要な子どもについて、発達や保健の観点から必要な支援を話し合うなど、最適な援助を行えるよう配慮している。「誉める保育」の実践によって子どもの存在そのものを肯定的にとらえ、認めることで一人ひとりが愛され、尊重される自己肯定感を獲得できるようにしており、法人内の活発な研修によって、各職員がその理解を深めている。</p> <p>日常保育の中で虐待の早期発見に努め、必要な場合の関係機関との連携に備えている</p> <p>毎日の登園時や着脱・排せつの場面など、職員が機会をとらえて子どもの身体・清潔や衣服の状況、親子の関わりなどに気を配り、虐待等の早期発見に努め、必要な場合には関係機関に通告を行えるようにしている。通告先の各機関を含め、虐待対応に必要な知識全般をまとめたマニュアルが整備されており、その周知を課題としているほか、機会を設けての勉強会や外部の関連する研修への職員の派遣やその成果の共有など、虐待に関する職員の研鑽機会の設定も課題と考えている。直近では系列園で発生した通報事例を回覧によって共有する取組を行っている。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	11/11
6 事業所業務の標準化			
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している		評点(00000)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した保育ができるようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評			
<p>基調とする「誉める保育」の実践をはじめ、実務の各種心得を文書化し、明示している</p> <p>「保育の基本方針」に「誉める保育」の目的や意義のほか、その実践のための体制や家庭との連携、子どもと関わるうえでの心得や食事・睡眠・排せつ等の各場面での具体的な接し方の例、名前を呼ぶことなど大切にしている習慣に込められた意味など、職員が共有・実践すべき各種規範を示し、全職員に配付のうえ入職時に確認を行っている。また新人職員向けに法人共通の保育の基本エッセンスを写真とともに伝える手引きを作成し、注力する表現活動と食事に関しても同様に写真と文章によって基本的な考え方や手法などを伝える資料を作成している。</p> <p>各種マニュアルの整備や、毎月の職員会議での振り返りと課題検討もなされている</p> <p>上記のほか安全管理・衛生環境・健康管理・感染症対応・不審者対応・虐待対応・プライバシー保護など、リスクマネジメント全般について手引書類が整備され、事務室に常備されており、安全・衛生・感染症及び虐待については今年度改定がなされている。また毎月の職員会議では、安全管理面を中心とした情報共有や経営層・看護師からの注意喚起が随時なされるほか、法人内の事例をもとに熱性けいれんの対応の確認、園児の個別状況や課題を共有する「子ども共通理解」、室内環境の見直しなど、振り返りと認識の共有や改善検討の場となっている。</p> <p>現場や保護者の声を活かした改善や、各種研修による組織的な研鑽も図られている</p> <p>乳児・幼児の各会議や、その記録を含む「コミュニケーションノート」への職員の随時の記入も、現場の気づきと課題認識の共有や各種改善の起点となっており、保護者の声も「フェスティバル」の観覧席の配置をはじめ、業務の見直しに活かされている。職員の学びの機会も活発に設けられ、法人各園での「誉める保育研修」では、対象園の保育の視察と参加者の話し合いから、各園の環境設定や子どもへの援助・保育活動の充実が促され、園内でのその報告・共有もなされるほか、オベレッタ等の自主研修や新人のOJT「スタンブラー」も実施されている。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35 / 35
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目1の講評			
<p>子どもの姿を適宜記録する仕組みと保育への理解につなげる取組が行われている</p> <p>児童票は発達の記録として毎月、心身両面での育ちについての印をつけているほか、「参考となる事項」として0～2歳児は毎月、3歳以上児は年間を4期に分けて子どもの発達を記録している。保護者会や懇談会・年1回の個人面談では園での子どもの姿や家庭での様子を共有しているほか、保育士体験として保護者がママ先生として保育に参加することで、保育の理解につなげたり、保育者とのコミュニケーションが深められるなどの取組が行われている。</p> <p>異年齢の子ども同士が一つの空間で楽しく過ごせる環境が整えられている</p> <p>園舎内は一つの空間であるという認識のもと、子どもが自由に行き来できるよう取り組むことで自発的な興味関心の意欲につなげている。園庭にCDデッキが置かれ、子どもたちが慣れ親しんでいる曲が常時流れ、興味をもった異年齢の子どもたちが自然と集まりそれぞれに踊ったり歌ったりしている姿が訪問時にも見られていた。各保育室内は子どもの目と手の届く位置に玩具が設置され、自発的に玩具を選び、テーブルに運んで集中して遊び込めるスペースの配慮もなされている。</p> <p>子ども同士のトラブルへの対応や配慮の必要な子への支援に努めている</p> <p>子ども同士のトラブルが発生した時は、すぐに大人が関わるのではなく、子ども同士のやりとりや経緯を把握しつつ見守る姿勢に努め、必要であれば子どもの言葉を代弁したり、助言を行い子ども同士で折り合いがつけられるようにしている。特別な配慮が必要な子どもは家庭と連携を図り、専門機関からの助言を仰ぎながらも、特別な支援ではなく一人ひとりが安心して過ごせる環境の中で、子ども同士が助け合いながら過ごせる見守りを行っている。適宜会議で気になる子の事例を挙げ、子どもの様子を共有している。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>登降園時に園と家庭の情報共有を行う仕組みが整えられている 登園時は連絡帳または連絡アプリで体調や体温等を伝えるほかに、口頭でも確認をしている。聴取した情報を「受け入れファイル」に記載して職員間で共有を図っている。子どもの様子を保護者に伝えるために、職員同士の会話のやり取りを意識的にを行い、一人ひとりの子どもの姿や思いを把握するよう努めている。降園時は乳児は連絡帳にてその日の保育や様子を記載し伝え、2歳以上児は掲示板にて保育や集団の様子の記入を行い、保護者に報告するとともにエピソードを添えて口頭で伝えるよう心がけている。</p> <p>子どもたちの生活習慣確立は、個々のペースに合わせて支援している 身辺自立は集団として一斉に行うのではなく、個々の生活リズムや意欲に合わせて一人ひとりのペースに合わせて行うようにしている。個々の姿はケース会議で伝達し合い、保護者とも連携を図っている。異年齢での生活の中で、年上の子がトイレに行く様子に刺激を受けたり、着脱時には年上の子がお手伝いをしてくれることで、一人ひとりの意欲が促され、成功体験を積み重ねて自立へと進められている。1歳児の夏頃から午睡時にパジャマに着替える習慣を通して、個々に着替えの手順を知らせ段階的な見守りを通して身につけられるようにしている。</p> <p>午睡は子どもの生活リズムや意欲に合わせて行っている 午睡は子どもの生活リズムや睡眠意欲に合わせて行っている。食事を終えて着替えに移行するタイミングについても個々のペースに合わせて大切な関わりととらえ、体力や眠りたい様子が見られたら布団に促し、安心して眠りに移行できるようにしている。午睡時間やタイミングは保護者からの要望にも合わせ、子どもの様子を見ながら対応に努めている。SIDS対策として0・1歳児は5分ごとに呼吸・状態のチェックを行い、2歳以上児は15分ごとに子どもの様子を見回っている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3の講評		
<p>目指す保育に向け子どもが自ら遊びを選び、満足感が得られるようにしている 「やりたいことがある。やりたいことができる」を目指す保育として掲げ、園庭を含めた園全体を一つの環境としてとらえ、子ども一人ひとりの自発的な活動を尊重している。大人が活動を与えるのではなく、子ども自身が選択して遊びの満足感を感じ、次の意欲へとつなげられるような環境設定及び支援を行っている。ブロックや制作などの継続した遊びは保管ができる場所を設け、完成した作品は棚に飾ったり、作品の写真をファイリングして室内に残すなどの丁寧な関わりが子どもの満足感や肯定感を育てている。</p> <p>さまざまな制作活動や、身体を動かしてのびのびと表現できる活動が行われている 外部講師のもと造形活動が行われ、さまざまな素材を活用して子どもの表現意欲が高められている。作り上げた作品の集大成として作品展が行われ、園内に掲示された子どもの作品を通して成長が感じられる取組となっている。リズム表現では音に合わせて身体を動かしたり、台詞と合わせて音楽劇を楽しむ姿などが見られている。誕生日を迎えた子どものお祝いは職員がさりげなくアプローチをして会が始まり、徐々に参加人数が増える中、カードを手渡したり、お祝いの歌を歌うなど小集団で楽しく祝う集まりが行われている。</p> <p>異年齢や同年齢の子どもたちが関わり合いながら遊びを楽しんでいる 園庭は大型遊具やぶらんこ・鉄棒等が整備され、異年齢や同年齢の子どもたちが仲間とともに探索遊びやルールのある遊びを楽しみ、傍で年上の子の遊びを眺めながら模倣する年下の子が見られ、同じ空間の中で場所と時間の共有を行い遊びを通して親しみや憧れを抱いている。幼児が乳児の手を取り、靴の脱ぎ履きや遊びの援助をするなど年齢相互の育ち合いの姿も見られている。近隣の公園などへの散歩は自然物を収集したり、落ち葉や池の氷などの自然事象を感じたりする活動として、子どもの要望を聴きながら散歩先を決めて出かける機会もなっている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>日々の活動を展開させ、子どもが期待感を抱いて取り組める行事が行われている</p> <p>「もりんびっく(運動会)」では、園庭でしていた遊びに工夫を重ねた競技にしたり、生活の中でできるようになったことを親子競技に採り入れるなど、日々の活動を展開させて楽しく意欲的に取り組める内容としている。5歳児は親子競技としてドッジボール対決を行い、内容考案にあたっては子どもとの対話を積み重ね、子ども同士が期待感をふくらませながら構築する姿が見られている。今年度は雨天のために2歳以上児のみの参加となったが、親子競技やかけっこなど内容を縮小しながらも親子で楽しく過ごせる行事となっている。</p> <p>子どもの興味や自ら取り組む意欲を表現できる行事を行い成長につながられている</p> <p>「フェスティバル」は表現活動を披露する場としてとらえ、オペレッタで絵本の世界を表現したり、慣れ親しんでいる歌や継続して挑戦している縄跳び、竹馬などを一人ひとりが自信を持って披露したりして達成感を得るとともに、保護者も成長の喜びを感じられる行事となっている。5歳児は「スイミー」のオペレッタを表現するにあたり、事前に水族館に出かけ魚の様子を学ぶなどの機会も持たれている。行事開催に向けて事前にお便りを配付し、当日に向けての子どもの姿を伝えることで、日頃の保育や行事の理解へとつながられるような工夫に努めている。</p> <p>子どもが自発的に物事に取り組めるような取組が行われている</p> <p>5歳児は就学を意識して、行事についての話し合いは机と椅子に着席して行うなどの環境を設定している。意見を伝えたい時は拳手をしたり、友達の話静静地に聞くなどの習慣が身につけられているとのことである。夏の「お泊まり会」では何をして過ごすのかを子ども同士で話し合い、決まった内容を書面に記入して保護者に伝えるなど、文字の練習だけではなく、一つ一つの把握を自発的に行い、決まりごとの内容を伝えられるということのをねらいとした取組となっている。これらの意図は園便りやクラス便りでも保護者に発信されている。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>子どもが安定した気持ちで過ごせる雰囲気環境を整備している</p> <p>園舎内は随所に観葉植物や季節の自然物が置かれているほかに、木製の棚や机・椅子が並べられた空間となっており、長時間過ごす子どもにとって安定した心持ちで過ごせるような環境となっている。各部屋は園庭を眺められる外部デッキとなり、子どもが遊んでいる姿を眺めたり自由に部屋の行き来ができることで、気分の切り替えにつながり生活のメリハリがつけられている。子ども主体の環境設定下では自ずと異年齢の関わりも増え、互いに刺激し合いながら、年齢相互の育ち合いが育まれている。</p> <p>保育者間での情報共有の仕組み整備と、延長時間帯の保育の工夫が行われている</p> <p>毎朝朝礼が行われ、前日からの子どもの様子や保護者からの伝達内容、保育内容での伝達事項等を共有している。「コミュニケーションノート」には子どもの行動や言動に対する肯定的な気づきや伝達事項等を記録し、担当外の保育者であっても子どもの姿が把握できるような工夫が行われている。延長保育の時間帯には補食が提供され、年齢に応じて量の調整を行い、家庭での夕食に影響が出ない程度となっている。子どもの人数が少なくなった時は遊戯室で鬼ごっこやボール遊びなど、少人数ならではの遊びに興じてお迎えが待てるような工夫も行われている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目6の講評		
<p>季節の食材を中心に、世界の料理や郷土料理など多彩な献立が提供されている</p> <p>献立は法人で統一されたものを活用し、各園の喫食状況の情報を収集して次の献立作成に活かされている。内容として季節の食材を中心に多彩な食材を盛り込み、薄味でだしを効かせた調理を行っている。毎月19日は食育の日として世界の料理や郷土料理・行事メニュー等を提供している。食事は一斉に食べ始めるのではなく、お腹の空いた子から自ら椅子に座り、順番を待つ姿が見られている。食べる部屋についても自分で選択ができる配慮がなされている。</p> <p>アレルギーや離乳食など、一人ひとりに応じた食事提供を行っている</p> <p>入園時にアレルギーの有無を確認し、医師からの指示書をもとに除去食の提供を行っている。提供時には誤配・誤食防止のためにマニュアルを整備し、配膳時や喫食時は複数回の確認を行って安全な提供に努め事故を防いでいる。また離乳食の場合には園で使用する食材を保護者に確認してもらい、初めての食材は家庭で試してから使用するなど段階的に進めている。おかわりは子どもの食欲に合わせて提供がなされている。また偏食傾向のある子どもには、少しでも口にしてもらうよう促しの声はかけるが、基本的には無理強いをせず、意思を尊重して支援している。</p> <p>身近な素材を活用して食への興味を深めている</p> <p>食への興味を深める取組として、今年度は米について取り組み、市販の米や雑穀米・アルファ米の食べ比べを行ったり、バケツで稲から米を育て、白米ともち米の違いを見比べるなど、身近な食材についての興味や関心を深めている。これらの取組においても一斉に活動を行うのではなく、自由に参加できるような体制がとられている。夏野菜はトマトやゴーヤ・ジャガイモなどを育て、興味を抱いた子どもが水やりや雑草抜きを行いながら、成長を心待ちにする姿が見られている。これらの活動は食育便りとして保護者にも発信を行っている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>日常生活や保育活動の中で、子どもたちの健康や安全への意識と習慣を養っている</p> <p>発達に応じて手洗いうがいを生活の各場面で励行し、幼児向けには汚れ残りの実験などを行いながら、感染症等の予防を子どもたちが自ら意識できるようにしている。歯磨きは幼児を中心に子どもの興味や家庭の意向を踏まえて個別に進めるとともに、3歳児向けの人気キャラクターのDVDを観ながらのブラッシング指導、4・5歳児への歯垢の染め出しなど、口腔ケアの意識と習慣も養っている。また散歩時には出発前の交通マナーの確認、公園での遊具の使い方や遊ぶ範囲・砂場の不使用の確認など、事故やケガの予防に向けた注意喚起を行っている。</p> <p>毎日の子どもの体調管理をはじめ、保健関連の各種対応のための仕組みを整えている</p> <p>登園時に担当が子どもへの健康観察と保護者からの情報をもとに子どもの体調を把握し、朝礼で職員間の申し送りを行ったのち、看護師が各クラスを巡回して状況確認と必要な保健対応を行っている。また毎日定刻に各室の温度・湿度を測定し、適切な空調と感染症の発生・蔓延防止を図るほか、トランシーバーを活用して看護師と各室が必要な際に即時に連携できるようにしている。入園時には子どもの既往歴・先天性疾患の有無や体質的な特徴、各家庭のかかりつけ医などを把握し、保健面の個別的な対応が必要な場合は、家庭との連携のもとで支援を行っている。</p> <p>子どもの健康維持に関する家庭との連携に向け、保護者への各種情報の提供を行っている</p> <p>内科健診を0歳児に毎月、1歳以上児に年2回実施するほか、年2回の歯科検診や毎月の身体測定を行い、各結果を保護者に報告して肥満や虫歯の予防をはじめ、必要な際の家庭との連携に備えている。また「入園のしおり」に各感染症やSIDSに関する情報を掲載し、入園時に保護者に説明するほか、毎月の保健便りでも時季ごとの感染症や生活習慣・健康管理などの話題を伝えている。園内での感染症の発生時には玄関や各室に発生状況や当該疾病の概要・予防の心得などを掲示して注意喚起を行い、自治体・保健所からの各種情報も玄関に随時掲示している。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者同士の交流や、園と保護者との相互理解を深める機会を、さまざまに設けている</p> <p>春の親子遠足では、開催後にクラス別の懇談会を実施し、親子で楽しく過ごした後の打ち解けた雰囲気の中で、各クラスや子どもたちの育ちの近況を伝え、年度末の保護者会では次年度の日程・方針のほか、各年齢の発達の傾向や見通しなどを説明している。それぞれ保護者同士で語り合う時間を設け、子育てに関するさまざまな話題で、疑問や悩みの共有、保育士や先輩ママからの助言等によるその解決など、交流と養育力向上が図られている。また秋には各家庭との面談を行い、それぞれの子どもの発達の状況や見通しなどを保護者と共有している。</p> <p>日々の情報発信や柔軟な就労支援により、保護者との信頼関係が深まるようにしている</p> <p>玄関ホールには園内の感染症状況や区の各種検診の案内、図書館や各種子育てイベントの情報・育児関連のフリーペーパーなどのほか、スライドショー投影による行事や日頃の活動などの紹介、園全体のその日の様子を伝える「一日の様子」、子どもたちの折々の描画・造形ブロック等の作品の展示など、子どもの毎日をさまざまに発信している。また各保護者とは日々の会話のほか、2歳児まで毎日、幼児も必要に応じて交わす連絡帳によって子どもの状況に関する情報交換を行い、延長保育利用等の要請にも柔軟な対応を図るなど、柔軟な就労支援にも努めている。</p> <p>園の保育や子どもたちの営みを、保護者へ具体的に発信する取組に注力している</p> <p>毎月の園・クラス便りでも子どもたちの近況や生活・活動のひとこまを写真を交えて伝え、保護者会や行事の待ち時間での動画やスライドの投影、年度後半の「フェスティバル」での園児の一年の様子を紹介する写真の掲示のほか、訪問調査当日も2歳以上児室を開放し、子どもたちのさまざまな作品を展示する取組が見られるなど、園の保育や子どもたちの営みを視覚からわかりやすく発信する取組に注力している。「もりんびっく」や「フェスティバル」でも日頃の表現活動や運動遊びなどの取組を保護者や仲間たちの前で披露し、成長を園全体で共有している。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>子どもたちが興味や関心に応じて地域のさまざまな場所へ出かけ、生活の幅を広げている</p> <p>子どもたちそれぞれの意欲や興味を軸に保育を行っており、散歩も集団ではなくその日その日の子どもの活動や関心に応じて実施している。幼児を中心に、職員と一緒に近隣の商業施設へ活動で使う素材や材料などを買いに行ったり、女児が区の公園で各種のバラの花や香りを愛でたりするほか、土曜保育利用の子どもたちなどが図書館に出かけて本を借りたり、公共の場での立ち居振る舞いを知ったりするなど、職員が子どもたちの声をすくい上げ、地域のさまざまな場所へと子どもたちの活動範囲を広げ、生活の幅を豊かにしている。</p> <p>地域のさまざまな人々とのふれ合いが、子どもたちの豊かな社会性の礎を育んでいる</p> <p>来園する職場体験の中学生を保育活動とともにし、世代の近いお兄さん・お姉さんとのふれ合いの中で、子どもたちが成長の憧れを培うほか、年長児は近隣の小学校と交流し、「お店屋さんごっこ」に加わったり、授業風景の見学や、係活動やランドセルを背負う体験をしたりしており、この中で他園の園児との関わりや小学校に通う卒園児との再会もなされるなど、出会いやふれあいの場ともなっている。また立地する高層住宅の管理組合の方を餅つき行事に招いたり、散歩で知り合った地域の方が来園して園の花の世話をしてくれるなど、人の輪も広がっている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	2-1-1	社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している
タイトル①	ホームページを活用して積極的に情報開示を行い、透明性の確保に努めている	
内容①	法人はホームページの充実に積極的に取り組んでおり、法人に関する情報(概要・定款・役員報酬規程・現況報告書・事業報告書・財務諸表・個人情報保護方針等)に加え、傘下各園ごとに、利用者に向けた情報を6項目に整理して、保育への取り組み姿勢とその内容、利用者に向けた各種の情報、園単位の財務諸表などを、検索しやすい形態で詳細に公表している。検索はパソコン・スマホの双方からできるようになっており、組織の社会的責任としての透明性の確保に努めるとともに、利用者のみならず利用希望者や就職希望者の利便性を考慮した構成としている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	独自性豊かな園の保育を保護者に伝え、理解を得る取組をさまざまに行っている	
内容②	園の保育のありようや子どもの育ちにおいて大切にしているものについて、保護者との相互理解を深めることに注力している。多様な機会と媒体を活用し、保育活動や行事の様様を写真や動画で紹介するほか、造形活動等の作品の展示、「フェスティバル」での日頃の成果の披露など、子どもたちの取組やその結晶を積極的に紹介し、懇談会・保護者会や保育参加といった交流・体験の機会も設けている。毎月の園便り・クラス便りにも、「誉める保育」やその中で子どもたちが獲得するさまざまな成長、保育者の思いが具体的ににつづられるなど、情報の発信に努めている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている
タイトル③	さまざまな改善や情報共有・育成において、各職員の能動的な関わりが促されている	
内容③	会議や「コミュニケーションノート」を通じ、職員の現場の気づきや改善課題を共有し、子どもの発達の推移をもとにロッカー内のカゴをなくしたり、教具や家具・備品等を増設するなど、それを形にすることにも注力し、誤食・誤飲やケガ・転落等の事例・リスクの共有や、「子ども共通理解」での子どもの課題等に関する検討もなされている。また「スタンブラー」と題したOJTでは、事務・安全衛生など現場の定型業務について、新人が先輩格の職員に順次指導を受け、確認印を得てゆくなど、各人の能動的な関わりのもとで改善や研鑽がなされている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもが主体となった環境の中で自発的に遊びを選択し、子ども同士での育ち合いの姿が見られている
	内容	日々の保育は子どもが主体となり、一斉に活動を促すことなく一人ひとりの子どもの好奇心や意欲を引き出せる環境を設定している。保育室は年齢別として構成せず、子どもが自発的に選択して園庭を含めたそれぞれの場所で遊びに取り組み、満足感へとつながられている。また異年齢の子ども同士の関わり合いが日常的に行われ、模倣から憧れ・思いやりや助け合いなどの気持ちが育っている。保育者は担当年齢に関わりなくチームとして子どもの行動を見守り、存在やうれしい気持ちを誉める言葉で伝え、個々の子どもの自己肯定感が養われている。
2	タイトル	リズムや造形などの表現活動を通して子どもの創造性を高め、心身ともにのびのびと表現できる取組が行われている
	内容	リズム表現や造形活動など、子どもの自由な発想を尊重してのびのびと表現できるような取組が行われている。造形活動では描画や立体の作品など、季節や発達に応じてさまざまな素材に触れて表現を行い、リズムでは音を身体で感じる楽しさや、オペレッタとして空想力を高めながら全身で表現する喜びを体感している。これらの表現活動は行事として披露する機会が設けられ、緊張感を感じながらも達成感を抱ける取組となっている。また日頃の取組を保護者に披露することで、保護者の保育への理解が信頼関係構築へとつながられている。
3	タイトル	「誉める保育」の理解をはじめとするさまざまな知見や専門性を高め、各職員の保育者としての成長を促す機会が多様に設けられている
	内容	法人共通に掲げる「誉める保育」には、子どもへの接し方や職員間の連携、個々の成長や「誉める」タイミングを見計らう保育者としての洞察など、多様な知見と技術が求められる。それらを学ぶ研修が当園を含む法人系列及び提携の各園で行われ、現場の視察と参加者間の語り合いによる研鑽がなされている。また外部の有識者が保育の専門性を講授する法人合同研修、子どもたちのオペレッタ表現に関する研修や外部機関によるチーム力向上研修、新人が日常の定型業務や保健衛生業務等を学ぶ「スタンブラリー」と題した園内OJTなど、さまざまな機会がある。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	目指す保育に向け、さらなる子ども主体の保育へと展開できるような記録の取り方についての検討を期待したい
	内容	目指す保育に向けて養護と教育の視点を年齢別にとらえ、年・月・週の計画を策定し、日々の保育が展開されている。一斉保育ではなく個々の子どもの思いを尊重した保育内容として、緩やかに活動を設定し子どもの姿や環境、保育者の関わりについて定期的に振り返りが行われている。0・1歳児は個別に日誌に記録されているが、幼児の日誌内容については再考の余地が見られる。子どもの主体性を尊重し、一人ひとりの子どもの活動を振り返ることができる日誌の記録方法をさらに検討することを期待したい。
2	タイトル	個々の職員の育成目標や対策・達成状況等を可視化し、継続的に管理するための個別育成計画の仕組みの検討が期待される
	内容	職員の質の向上への取組の一環として、園長が職員の作成する個別シートに基づき実施する面談で、個々の職員の意向や育成希望を把握し、必要な資質向上支援につなげている。ただし個々の職員の育成目標を明確にし、対策や達成状況等が見える個別育成計画の作成にまでは至っていない。現在、法人は総合的な人材マネジメント体制として、職員の育成・評価・報酬が連動したキャリアパス制度の導入を検討している。新制度の導入によって、組織運動の原動力となる職員のやる気や資質の向上が図られ、組織力の強化に結びつくことを期待したい。
3	タイトル	地域に根づいた園づくりに向け、園の専門性を活かしたさらなる地域支援の取組の検討が期待される
	内容	園機能の地域への還元として、園が入居する建物の住宅管理組合（高層住宅4棟を管理）の総会等に施設・備品の開放を行い、園行事のポスターを同組合と4棟の掲示板に掲示するなど地域との相互関係の強化に努めている。また園の社会的責任として実習生やボランティアの受け入れ体制を整備して積極的に取り組んでいる。事業所の専門性を活かした取組については、子育て家庭に向けた育児講座や、就学後の子育てをエリア内で協働する取組などを今後の課題としているとのことである。今後の取組やその成果に期待したい。